

生き証人としての被ばくした牛たち

2019年11月15日 筒井哲郎

1. 詩画集『見捨てられた牛ーフクシマより』出版記念作品展

戸田みどりさんの詩画集『見捨てられた牛ーフクシマより』が出来上がり、11月13日にその出版記念作品展が、埼玉県東松山市にある原爆の凶丸木美術館で開幕した。当日、戸田さんと筆者夫婦の3人は、自家用車に同乗して朝10時に到着した。

特別展のために1室があてられ、大小二十数点の被爆した牛たちの絵が展示された。1年前に初めてアトリエで見せていただいたときよりもさらに極限の命を写し取られた絵が何枚も増えている¹。

昼頃になると、戸田さんや〈希望の牧場〉の代表・吉沢正巳さん、この二人の友人やサポーターたちが追い追い集まってきた。

2. 作者・牧場代表との対話集会

14時から戸田さんと吉沢さんを囲む対話集会が開かれた。30名余りの人びとと、新聞記者2名が参加された。はじめに、戸田さんのあいさつ、吉沢さんのスピーチがあった。何よりも、現在も270頭の病牛を飼っているという事実が圧倒的な力で迫ってくる。「浪江町には2万人以上が住んでいたが、現在は1000人しか戻っていない。しかし、何百億円という金をつぎ込んで土工事を行い、復興したという図柄を描こうとしている。しかし、他方には町の荒廃が進んでいる」「牛を飼う意味は何か。国に対する異議申し立てである。被ばくの事実を突きつけることが目的である」と吉沢さんはいう。

実際、政府は、「被ばくは問題がない。現在発生している200人を超える子供たちの甲状腺がんは、原発事故が原因だという証拠はない」と主張している現実がある。そして、放射線量の高い地域の家畜は殺処分せよという指示を出した。小学生たちに謳い上げている「命の大切さ」と、どう辻褄を合わせるのだろうか。

3. 〈カウ・ゴジラ〉

吉沢さんは、映画「シン・ゴジラ」を2回見て共感し、〈カウ・ゴジラ〉という像を作って、街頭演説しておられる。また、様々な招請もあって、近いうちに韓国へも出かけるとのことであった。シン・ゴジラは、放射能拡散を機に海中で目覚め、関東地方を襲うというストーリーであった。270頭の牛を飼うにはその牧草の費用だけで年間1080万円か

¹ 出合いは、共通の友人の喫茶店で、「対話集会」を催してくださったことによる。「脱原発宣言」その18「相模原市での対話集会」。関連記事には、「『病める牛たちの絵』の意味」「脱原発宣言」その19

かるといふ²。牧場近辺の放射能レベルは $2\mu\text{Sv/h}$ だといふ。ご自身の被ばくも原発労働者以上のレベルに達しているはずである。預言者のような象徴行為に頭が下がる。



右から吉沢さん、戸田さん、筆者



〈カウ・ゴジラ〉

² 『BECO 新聞』第7号